

八木啓代が音と映像で解き明かすラテンアメリカ音楽の神髄

時代を呼吸する歌 (全4回)

8月21日(土) 午後1時～4時30分
キューバ音楽

マンボ、ルンバ、チャチャチャなどで、第二次大戦後の世界で、一世を風靡したキューバ音楽は、キューバ革命と共に「有名音楽家の大半は亡命した」とされて、世界の音楽市場から姿を消しました。

それが、ジャズに彗星のように現れた天才ピアニスト、ゴンサロ・ルバルカーバのヨーロッパでの成功に続き、ヴィム・ヴェンダースによって映画化された「フエニスタ・ソシアルクラブ」の世界的大ヒットにより、再び、世界の音楽市場に登場するまでの25年間、キューバで、いったいなにがあったのか。また、キューバ音楽が世界市場から消され、また、復帰したその裏で、本当は何が起こっていたのか。

マンボやルンバ、チャチャチャなどのラテン音楽のルーツから解き明かし、サルサから、現在のキューバの最先端音楽までをも一望する、目から鱗のキューバ音楽講座を、豊富な映像資料と音源を駆使して聴いて頂きます。

講師=八木啓代

会場=本郷文化フォーラム

参加費=1500円 (学生1000円)

問合せ=HOWS (ハウス) 事務局

電話 03-5804-1656

<会場>

本郷文化フォーラム

(地下鉄丸の内線・大江戸線「本郷三丁目」駅下車徒歩5分)
〒113-0033 東京都文京区本郷3-38-10 さかえビル2階
小川町企画内

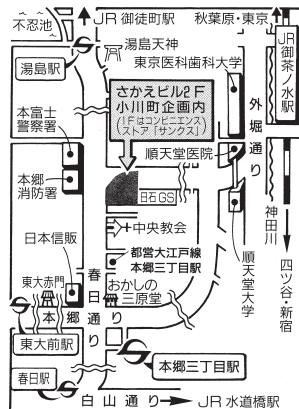
<問合せ>

HOWS 事務局

TEL 03-5804-1656

E-mail:

hows@dream.ocn.ne.jp



8月28日(土) 午後1時～4時30分
ヌエバ・カンシオン概説

70年代にラテンアメリカに生まれ、チリやアルゼンチン、ウルグアイを皮切りに、パルーやベネズエラ、ニカラグア、メキシコと中南米各国に飛び火しながら、以後のラテンアメリカの音楽や社会、政治に大きな影響を与えたヌエバ・カンシオン運動と呼ばれた音楽運動。

この運動は、チリの軍事クーデターの中で虐殺され、のちの20年に及ぶ反軍政運動のシンボルとなったビクトル・ハラが存在によって、世界的に知られるようになったが、もちろん、この運動が、彼によって始まり、彼によって終わったわけでもありませんでした。

では、なぜ、音楽が、そこまで大きな影響力を持つに至ったのか。その背景や本質とは何か。

ラテンアメリカの社会運動と音楽との関係とを、それらのバックボーンとなるそれぞれの地域の民謡の紹介と共に、その歴史と現在に至る流れを追っていきたいと思います。

いわゆるプロテストソングや、政治的な主張を持つ音楽家の作品、というくくりだけではとらえきれない、中南米の民謡から生まれ、ロックやサルサ、ポップスや現代音楽にも巨大な影響を与えた音楽のムーブメントを、貴重な映像とともにレクチャーします。

(第3回・第4回は、11月以降に計画中)

◆八木啓代さんprofile



八木さんは、メキシコに留学後、中南米各地を訪問し、メキシコ・シティーとキューバ・ハバナを拠点に、作曲やソロ・ヴォーカリストとして活動を開始。日本に戻り、個性的なレパトリーで各地で精力的にライブ活動を行っている。ラテンアメリカやワールドミュージックに関するコーディネーターやプロデューサーとしても活動している。

著書『禁じられた歌——ビクトル・ハラはなぜ死んだのか』(晶文社)、『パンドラ・レポート——喝采がお待ちかね』(光文社)、『ラテン女のタフで優雅な生き方』(大和出版)、『危険な歌——世紀末の音楽家たちの肖像』(幻冬舎文庫)、『ラテンアメリカくいいしんぼひとり旅』(光文社文庫)、共著『キューバ音楽』(青土社)など、他多数。近著に『ラテンに学ぶ幸せな生き方』(講談社+a新書)。CD『Esta Mujer』と『Se Vive Asi』(メキシコで出版されていて、iTuneStoreやネット通販で入手可能)。